

種ばれいしょ(春作)

月	旬	作型	主要作業	栽培の要点
#	上		種いも選別	<p>種いも消毒は県防除基準により必ず行う。 種いもは植付け前約30日間浴光処理を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> : 植 え 付 け : 収 穫 </div> <p>生産安定のために計画的に土壤消毒を実施する。</p>
	中		種いも消毒 浴光育芽 耕耘・整地	
	下		土壤消毒	
1	上		完熟堆肥施用	<p>完熟たい肥は1t/10a施用する。土壤診断を行いpHを適切に保つよう、酸性土壤では石灰資材40kg/10a程度施用する。</p> <p>施肥例 BB234 140kg/10a(全量基肥、土壤施薬と同時に行う。)</p> <p>種いもの切断は包丁を熱湯消毒して行う。 植付け期:1月下旬～2月上旬(霜の恐れがある所はやや遅く植え付ける) 栽植密度60～65cm×20～25cm(塊茎単位栽植)</p>
	中		施肥	
	下		植付け	
2	上		培土	<p>除草剤を散布する。 培土は十分行き、排水を良くして緑化いもの発生を防ぐ。 マルチングは、必ず出芽始め頃土壤水分が適当な時に行う。</p>
	中		除草	
	下		マルチング	
3	上		芽出し	<p>出芽が始まったら、芽焼けを起こさないよう1～2日毎に芽出しを行う。</p>
	中			
	下			
4	上			<p>ウイルス病等の病株は、発見次第早期に塊茎単位に抜き取り、病気の感染・拡大を阻止する。出芽揃いから収穫期まで数回共同で徹底して抜き取りを行う。 アブラムシ、疫病等の防除は早期発見に努め、適期に共同で地域内一斉防除を行う。薬液量は生育程度により調節し、着蕾期以降は10a当たり150～200%散布する。 ジャガイモガの被害を防ぐため、掘り取ったイモは圃場には放置せず、残りイモは処分する。</p>
	中			
	下		病株抜き取り 病虫害防除	
5	上		坪掘り	<p>収穫期:6月5日～15日 病害虫の発生源となるので、野良いもや茎葉は残さず圃場外へ持ち出し、処分する。 晴天で土が乾いている時に掘り取る。いもは日光に長時間さらさない。ジャガイモの被害防止のため茎葉での日除はしない。 貯蔵前に庫内の清掃をする。いもは丁寧に取り扱い、風通しのよいところに薄暗くして貯蔵する。貯蔵後も腐敗いもの除去、ジャガイモガの予防のため寒冷紗の被覆を行う。 病いも・傷いも・腐敗いも等を除去し、規格別に選別を行い、生産物検査(7月下旬～8月上旬)を受ける。</p>
	中		収穫	
	下		後片づけ 貯蔵	
6	上			<p>規格: L 120～190g MS 40～120g</p>
	中		選別・出荷	
	下			